

## 基調講演「近代化遺産と地域活性化」

産業考古学会会長・日本大学理工学部

上席研究員 伊 東 孝



### I. はじめに

みなさんこんにちは。ご紹介いただきました伊東です。今日は「近代化遺産と地域活性化」というタイトルで、なかでも愛媛県に焦点をあててお話ししたいと思います。

「近代化遺産」については、先ほどえひめ地域政策研究センター理事長の麻生俊介様からお話がありましたが、実は、私はこのような「近代化遺産」という言葉が世に出る前から、「土木遺産」とか「産業遺産」などについていろいろと調べていました。この「近代化遺産」という言葉は1990年にはじめて登場した言葉です。今でこそ「近代化遺産」という言葉を使っておりますが、当時、土木の世界では「遺産」という言葉はなかなか使えませんでした。建設業界のある機関誌で連載をしたことがあるのですが、「土木遺産」という言葉を使いたいと思ったら、「伊東さん、そんなのダメだよ。“遺産”なんて古びたものとか、あまりいいイメージがないから“遺産”はやめようよ」といわれました。「歴史的土木構造物」とか「近代土木構造物」という言葉に変えました。「遺産」という言葉は使えず、不本意な思いをしたことがあります。

「近代化遺産」という言葉は、文化庁がつくった用語ですが、恐らくみなさんは現在、「近代化遺産」と聞いてもぜんぜん違和感はないと思うんです。なぜそうなのか。一番大きな貢献をしてくれたのは世界遺産です。「世界遺産」というのは、日本では1992年、今から21年前に登場し、メディアなどでいろいろ紹介され、「遺産」という言葉がだんだんいいイメージになってきました。そういう意味では、「近代化遺産」という言葉は知らなくても、世界遺産はみなさんご存じだと思うんです。後でトークセッションでもお話が出ますが、私は岡崎直司さんの案内で愛媛の土木遺産とか産業遺産をいろいろめぐってきました。愛媛にはいろいろ面白い遺産が残っています。昨日の打ち合わせの席で、なぜ愛媛にはこんないろいろ面白いものがあるのだろうと話していたら、岡崎さんが「愛媛というのは近代化遺産の玉手箱だ」とい

う表現をしました。「その言葉いいね、使っていい？と聞いたら“岡崎”を入れればOK」ということだったので使わせていただきますが、愛媛には近代化遺産に関して全国的に見ても面白い物とか最先端の物がいろいろあります。そういったことを、これから紹介していきたいと思います。先ほどお話がありました「えひめの近代化遺産」という普及版が仕上がったので、トークサロンを開催できるのですが、この元になったのは文化庁と愛媛県教育委員会とが共催でやりました「愛媛県の近代化遺産」です。普及版は、みなさん、ご存じですよ。知っている方は手をあげてみて下さい。会場の方、半分近くいらっしゃいます。半分の方がこの本を知っているということは非常に心強いものがあります。

今から10年くらい前に『愛媛温故紀行』という本をまとめました。今回、白い表紙の「愛媛県の近代化遺産」、それからこういう形で普及版が出たわけです。なぜ3冊も同じようなことをやったのだらうと思われるかもしれませんが、それぞれ違いがあります。その辺の理由を、紹介してみたいと思います。それから、今日、みなさんが入ってくるときに、この「舞たうん」という小冊子入手されたと思うのですが、私も今さっき見たばかりです。後ろのほうに「近代化えひめ歴史遺産総合調査報告書の普及版発行のお知らせ」、その前の22ページには近代化遺産の調査のために2年間われわれと一緒に動いてくれた土岐博史さんが、「日本初2回目の近代化遺産調査の実施」という文章を書かれています。このように近代化遺産調査を2回もやったというのは全国初めてです。そういったことも含めてこれからお話しします。

### II. 近代化遺産調査の目的と特徴

先ほどの『愛媛温故紀行』と文化庁の報告書の違いを紹介してみたいと思います。その前に「近代化遺産とは」ということで先ほど麻生様から紹介していただいたので、また紹介する必要はないのですが、もっと簡単に一言で